

《時局講演会》

音楽家から見える今の世界

講師 作曲家・笠松 泰洋



【プロフィール】

1960年福井市生まれ。東京大学文学部美学芸術学科卒業。作曲を三善晃、ピアノをゴールドベルク山根美代子、オーボエを岩崎勇に師事。室内楽からオペラまで幅広く作曲活動を展開。蜷川幸雄に見出され、数多くの演劇、ダンス作品、映像作品等に音楽を提供。2018年には劇団四季「恋におちたシェイクスピア」の音楽を担当。平成30年度文化庁文化交流使に選出され、南米4ヶ国、ロンドンで自作曲のコンサートを、ウィーンではオペラ「人魚姫」の英語版を世界初演した。

【講演概要】

笠松は作曲家として、日本在住の海外からのアーティスト、海外に在住のアーティストの方々と、いろいろ交流があり、その中で、同じ目標を持った仲間という点では、国籍や言語は、少なくとも音楽には全く関係ない、という思いを強く持つに至りましたが、一方で、アーティストの生きる環境は、政治状況によって激変する、ということもリアルに感じてきました。現在はロシアとウクライナが注目されていますが、今、南米の政治状況がどうなって、一般の人がどんな状況に置かれているのか、はほとんど注目も報道もされませんが、南米でも私が訪問した3年前から、ほとんど全ての国に政変があり、かなり国内が混乱した状況にあります。私が行った3年前は、ベネズエラに反米政権が出来て、それを覆そうという動きとの対立もあり、国内のプロのオーケストラ9団体のうち6団体が解散になって、音楽家は受難の時期となり、エクアドルでもペルーでもアルゼンチンでも、ベネズエラから流れてきた音楽家の方々が、なんとか音楽家として生きようとしていました。実際に、この3カ国では、私の曲の演奏に加わってくれた方々にベネズエラの方が入っていたのです。ウィーンでオペラの主役を勤めてくれたソプラノ歌手は、ウクライナ人でした。その後、ウクライナでとても活躍していましたが、今どこにいるか、本人が明かせない状況になっています。日本のあるオーケストラにいた凄腕のロシア人奏者は、契約上日本に1年に3ヶ月だけいる客演主席という立場ですが、一旦ロシアに帰ると、もう二度と出国出来ないだろう、と悩んでいました。彼からは、兵役の期間の訓練の話も聞きました。多くの国に兵役があり、音楽家でもそれは逃れられないのです。帰国すれば徴兵される可能性もあるのです。国際コンクールで優勝している音楽家でもそうなのです。そういった、生の情報も話しながら、音楽家は社会とどう繋がるべきなのか、困難な世の中にはどう考えればよいのか、など、話させていただこうと思っています。

2022年 **8月17日** (水)

無料

14時～15時30分 (開場 13時30分)

所 沢市中央公民館ホール

お問い合わせ・お申し込み 松尾 080-1188-9411 aust106@qk2so.net.ne.jp
内川 080-5007-1950 kenji.uchi@outlook.jp